

平成27年 新春懇談会

年 頭 に あ た り

平成27年1月9日

礼文町長 小野 徹

明けましておめでとうございます。
輝かしい平成 27 年の新春をみなさんとともに迎えることができたことを心からお慶び申し上げます。

また、本日は、新年早々の何かとお忙しい中、新春懇談会にご出席を賜り、厚くお礼申し上げますとともに、皆様には、日ごろから町政の推進にあたり格別なるご理解とご協力をいただいておりますことにあらためて心から厚くお礼を申し上げます次第でございます。

さて、新春懇談会の開会にあたり、昨年 8 月 24 日の土砂崩れにより、お亡くなりになられましたお二人のご冥福をお祈りして、黙とうを捧げさせていただいたところでございます。

近年、地球環境の変化が異常気象となってあらわれており、全国的にも昨年は 2 月の関東・甲信地方を中心とした記録的な大雪、また、7 月には九州地方で観測史上最大の雨量を記録し、8 月から 9 月にかけては西日本や北海道でも局地的なゲリラ豪雨が頻発するなど、近年の自然災害は暴風、集中豪雨、高波、吹雪ともに膨大化する傾向にあり、本町においても 8 月 24 日、「50 年に一度」と云われた記録的な集中豪雨によって、高山地区では土砂崩れにより住宅が全壊し、お二人の尊い生命が失われました。

河川の氾濫や土砂流出による住宅や店舗などの被害、道路の土砂崩れ等、被害は合わせて 115 件となり、国の激甚災害の指定を受ける大災害となったところであります。

また、昨年暮れの12月17日から18日にかけては急速に発達した低気圧の影響により、「数年に一度」の猛吹雪に見舞われ、本町でも高波によりキトウス、赤岩、上泊地区において、住宅の半壊や漁船流出などの被害が発生しました。

さらに、年明けの7日夜、一昨日であります、急激に発達した低気圧により、大備川に海水が逆流し、3世帯6人の方が輝交流館に避難をされました。

幸い、人的被害がなかったことに安堵しておりますが、あらためて、被災された多くの皆様にお見舞いを申し上げますとともに、今年は早期に災害復旧に努め、二度とあのような悲惨な事故を起こさないよう、全力で安全安心の確保に努めてまいりますので、ご理解を賜りたいと思います。

さて、本年も年の始まりにあたり、新春懇談会の席上で、町の表彰条例に基づく「功労者表彰式」を行わせていただきました。

本日受賞された皆様方は、永年にわたり、それぞれの分野で、常に情熱をもって郷土礼文町の発展のため献身的にその職務に精励され、地方自治や住民自治の進展、納税の推進、また、地域を災害や火災、海難事故から守り、安心安全な地域づくりと住民福祉の向上に大変な尽力をされた方々でございます。

心から敬意と感謝を表すところであります。

また、昨年は、永年にわたって、本町の選挙管理委員会並びに交通安全運動にご尽力された 3 名の方が退任されました。

20 年以上にわたり、選挙管理委員会委員としてご尽力をいただきました「菅原保子さん」、同じく選管補充員の「佐藤ミヨさん」、また、16 年以上にわたって本町の交通安全運動の推進に格別なるご指導を賜りました指導員の「佐々木秀一さん」のお三方さんかたには、退任にあたり、永きにわたって、格別なるご尽力を賜りましたことに、感謝状を贈らせていただいたところでございます。

新しい年の始まりにあたり、ふるさと礼文町の発展を願って大きな夢の種をまかれ、本町の振興発展に多大なご功績を賜りました皆様、ご功労のあった皆様にあらためて衷心より深甚なる敬意と感謝を申し上げる次第でございます。

これからも礼文町発展のため、変わらぬご支援ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2015 年、平成 27 年は、未(ひつじ)年であります。ヒツジは群れをなして行動することから、家族の安泰や、いつまでも平和に暮らすことを意味する縁起物と云われ、豊作への願いも込められているそうであります。

本町の場合は、ホッケやタラ、ウニやコンブなど、浜の豊漁を祈願すること、また、観光の皆さんには、たくさん、礼

文島においてをいただいて、北の島を楽しんでいただくことを心から期待しているところでございます。

礼文町の基幹産業はいうまでもなく「漁業」と「観光」であり、本町経済の基盤となるものであります。

本町の昨年の両漁協合わせた水揚金額は、32億7千万円と見込まれておりまして、漁船漁業のホッケや、磯根漁業ではウニなどの水揚量が大きくが減少した中でも、3年続けて30億円の大台を確保した皆さんの頑張りに心から感謝申し上げます。

年々、漁業者の高齢化が進んでいるなか、意欲ある若い漁業者確保のため、町独自の支援対策として昨年4月から「漁業担い手支援事業」を創設し、ソフト・ハードの両面から若い漁業者や町外からの移住による漁業者の支援を行なってまいりました。

おかげさまで、昨年末、知床地区に2戸の「漁業者支援住宅」が完成しました。この住宅で温かいお正月を迎えられたことをとても嬉しく思っています。

今年は、船泊地区に建設する計画であります。

これからも、IターンやUターンなどで島に移り住んでこられた若い漁業者や島の漁業後継者などの住宅環境を改善し、安心して漁に出かけられるよう、若い漁業者育成のため「漁業担い手支援事業」をさらに推進し、漁業の安定的な発展を推進してまいります。

また、町外から礼文で漁師になりたいという若者や町の漁業後継者への支援策、「担い手支援」「住宅支援」のほかに、今年から町と水産指導所、両漁業協同組合がともに協同して、新たに「コンブ」の養殖技術普及を進めて所得を確保する支援策を加えることとしており、「担い手支援」「住宅支援」そして「技術支援」という所謂「漁業担い手支援の三本の矢」によって、若い漁業者を育成し、浜の活気を取り戻していきたいと考えております。

さらに、礼文島の海産物に付加価値を付け、新しい製品の開発と雇用の場の拡大を図ろうと、町と民間が一体となって「礼文町水産加工品開発協議会」を立ち上げ、「礼文ブランド」製品の独自開発に取り組んでいます。

将来的には、企画から加工、販売までを一貫して島内で地域の経済流通システムとして行う、所謂「礼文島の漁業 6次産業化」により、島で獲れた海産物に付加価値をつけて、礼文島内に若者の働く場を増やしていこうという画期的かつ壮大な取組であります。

今年も、更なる検証・協議を重ねながら「礼文島が生き残っていく」ための「攻め」の形を創り、島内に加工や販売部門を担う若者の雇用の場を増やして、定住を促進し、町を活性化させていきたいと考えています。

一方、観光につきましては、今年度の礼文島への観光入込数は「約12万4千人」と昨年を「8.1」ポイント下回ると推計されております。

観光も地域経済に与える影響が大きいことから、礼文島観光協会を中心に、稚内・利尻島など北宗谷地域と協働しながら東京・名古屋・大阪・福岡等の旅行代理店に対しての観光プロモーションを行う一方、ANAやFDAといった本州と北海道を結ぶ航空会社への要請に努めてきました。

また、道内では全体の3割と言われている訪日外国人が、近年、島内でも確実に増加が見られることから、観光協会のホームページやトレイルマップへの外国語表記、台湾でのプロモーションやシンガポールへの積極的な取り組みなど、受け入れ環境の整備に努めてきました。

「北のカナリアパーク」も、町の新しい観光地としての期待が寄せられ、着実に進化しております。期間中の入場者数も昨年は3万人を超え、今後も全国に大きな話題を提供できるよう、さらなる充実に努めてまいります。

また、稚内利尻礼文航路の「フェリー乗り降りのバリアフリー化」を図るため、香深港のボーディングブリッジ設置工事の完成も間近になっております。

春の供用開始に向け、快適な環境づくりと観光の振興を図ってまいります。

「最北の癒しの島づくり」は、礼文島が誇る世界水準の自然環境と多様な産業との調和が重要であります。

礼文島リボンプロジェクトをはじめ、人と人との繋がりがあう「礼文島らしいおもてなしづくり」をさらに進めてまいります。

さらに、今、「子育て支援」が重要なテーマとなっております。

本町においても、これ以上の人口減は地域の力がなくなってしまう、島での生活を守ることができなくなってしまう危機的状況になると考えています。

私たちの命題は、人口減少が進む極めて難しい状況の中で、できるだけ人口の減少を抑え、健全財政を維持しながら、地域の活性化を図っていくと云う極めて難しい問題ではありますが、そのことが行政の役割であり、「地方創生」がこれからの私たちの責務になっていくと云っても過言ではありません。

今年は「地方創生元年」と云われており、私はこれを「苦しい時期が終わって、新しい世の中が始まる」という風にとらえ、明るい希望と夢をもって、本町の活性化のため、地域のインフラ整備をはじめ新たに「地方への新しい人の流れをつくること」「地方に安定した雇用を創ること」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえること」など、様々な「定住促進対策」や「子育て支援」を進め、それによって、「若い世代の夢や希望に応える町にすること」、並びに、「漁業や観光が飛躍できるチャンスを創りあげる町にすること」が必要であると考えております。

現在、今年4月から始まる「新しいまちづくり総合計画」を策定しているところですが、新しい計画では、引き続き、次代を担う子どもたちが夢を抱き、自信を持って生きていけ

るような「元気な礼文づくり」を進めたいと考え、今回は特に「地方創生」を基本にした取り組みを積極的に進め「人口減少をくい止める施策」を展開したいと考えています。

島に住み続けること、また、礼文島で安心して子育てができるように努め、子どもたちの笑い声があふれる「元気な礼文づくり」を進めてまいりますので、ご理解とご支援をお願い申し上げます。

また、年明け早々に、安倍総理は、今年度の補正予算で、3兆5000億円の緊急経済対策を行って、昨年春の消費税増税による景気の落ち込みを早期に回復させ、全国津々浦々まで「アベノミクス」を実感させるということでもあります。

これらの緊急経済対策にも、しっかりと対応していくよう、職員に指示をいたしました。

一昨年から工事を進めてきました香深中学校校舎の耐震化工事も、昨年、完成を迎え、子供たちが安心して学校生活を送ることができるようになりました。

併せて、防災機能を持たせた校舎は防災拠点として災害時には大きな役割を担うこととなります。

今年は、礼文小学校体育館の耐震化を進めます。これで学校校舎等の耐震化工事は一応の完了となりますが、今後は、老朽化の著しい船泊小学校並びに礼文小学校校舎の改善に努め、子供たちが安全に安心して勉強できる環境を整えてまいります。

今、北海道が施工する香深と西海岸元地をつなぐ約1.5Kmの「新桃岩トンネル」工事の槌音が私たちの大きな期待と夢をのせて響きわたっております。

掘削工事も、昨年末には、300メートルを残すところまで掘り進んだとうかがっており、春には貫通する見込みであります。全工程の完成は平成29年度の予定であります。いよいよ、長い間の念願でありました、東と西が一本のトンネルでつながることになります。

新しい年の始まりにあたり、私は、夢と希望をもって、多くの先人が苦勞して築いてこられた「ふるさと礼文町」を、もっともっと元気な町にして未来に引き継いでいく決意であります。

皆さんとともに「元気な礼文町づくり」に一生懸命努めてまいりますので、どうぞ、これまで以上の温かいご理解ご支援をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げ、平成27年新春懇談会 年頭のあいさつといたします。

今年もよろしくお願い致します。

“ご清聴ありがとうございました。”